

普及活動情勢報告（平成29年4月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

創立3年目を迎え活動を強化・・・幡多地区環境制御技術研究会役員会・・・



4月19日、振興センターにて幡多地区環境制御技術研究会役員会を行い、3名が参加しました。農業改良普及課は定期総会の開催及び、今年度の計画について助言しました。

各品目における環境制御機器類の導入促進のため、会員全体の意識や技術向上を目的とした「外部講師（全農、大学教授など）による研修会」は継続することとしました。加えて、初心者への不安解消を目的として、役員が自らの経験や実績を直接伝える「意見交換会」も新たに実施することになりました。

農業改良普及課は、幡多地区環境制御技術研究会の自立した活動に対して、今後も支援を継続していきます。

ユズの面積拡大に向けて・・・三原村農業公社園地造成打合せ・・・



4月13日、三原村役場及び現地において、関係者6名で造成計画及び候補地の現状確認を行いました。

農業改良普及課は、園地の区画や用水確保についてアドバイスし、造成地での栽植方法などを共有しました。また参加者で、今後の工事執行計画（案）を確認しました。

農業改良普及課は、今後土質の調査を行うとともに、区画の設計や用水の確保方法について助言していきます。

ブロッコリーの省力化に向けて・・・共同選果の試行・・・



4月3日、JA高知はた下ノ加江事業所において、ブロッコリー一部会員3名と選果員3名を対象に作業手順や荷造り方法などの指導を行いました。

選果員は、ブロッコリーの荷造りが初めてで最初は戸惑いながらの作業となりましたが、出荷されたブロッコリーがすべて無くなる頃には上手に作業が行えるようになりました。

農業改良普及課は、今後この試行で得られたデータ（調整、箱詰め時間、必要な作業スペース等）をもとに問題点や課題を整理し、JA高知はた全体での実施に向けて取り組んでいきます。

次世代を担う若手生産者の育成のために・・・キュウリ若手勉強会・・・



3月22日、黒潮町大方の農業公社にて関係機関、研修生計5名が参加し勉強会を開催しました。

農業改良普及課からは、炭酸ガス施用ほ場の生育経過と仕立て比較試験の調査結果を報告しました。その後、公社研修生から耕種概要や温度管理、炭酸ガスの施用濃度の設定などについて説明してもらい、参加者全員で生育評価を行いました。また、栽培状況や管理についても意見を交わしました。生育評価を行ったことで、品種特性や樹勢判断のポイントが共有されました。

農業改良普及課は、今後も定期的に勉強会を開催し、学び教え合う場を通して若手生産者育成の支援を継続していきます。

設立1年目、行動開始！・・・(農)わらびおか役員会・・・



4月11日、JA高知はた東部出張所で農事組合法人わらびおかが今年2月の法人設立後、初めての役員会を開催しました。

役員会では、総会で決定した計画に沿って水稻栽培や機械導入計画を検討しました。農業改良普及課からは、協業栽培の会計一元化や補助事業で機械導入する時の要件を説明しました。

役員からは、「法人1年目なので法人運営が心配だが、関係機関の支援があるので助かる」と意見がありました。

農業改良普及課は、法人連絡協議会活動や水稻巡回指導などを行い、今後も法人の活動支援を継続して行います。

新規就農者を育てよう！・・・移動式雨よけハウスで就農開始！・・・



4月中旬、西土佐地区で10aの移動式雨よけ設備が完成し、新規就農者の米ナス栽培が始まりました。

このハウスは西土佐農業公社が高知県複合経営拠点支援事業を活用し、農業公社での研修修了後の新規就農者に一定期間リースをするというもので、今年度から新たに始まった取り組みです。

設備設置作業は普及指導員も協力して行いました。初めての設置は予想以上に時間や人手がかかることがわかり、今後の新規就農者への指導に活かせる知見が得られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら、新規就農者が安定した農業経営ができるよう支援していきます。

食農教育のために・・・宿毛 4H クラブ主催「すくも青空フェスタ」・・・



3月18日、宿毛市新港「すくも 84 マリントーミナル」で、宿毛 4H クラブ員 13 名が食農教育イベント「すくも青空フェスタ」を開催し、約 500 名の来客がありました。

農業改良普及課は、イベントの実施内容や PR 方法の指導、当日の進行支援を行いました。

イベントでは、宿毛市の農畜産物を使用して子供たちが調理を行う Kids 料理コンテストや、シェフを招いて宿毛の農畜産物を料理してもらった青空レストラン、クラブ員の育てた農畜産物の店頭販売などを行いました。

クラブ員からは、「農業に対する想いを伝えることができ良かった」、「またイベントを主催したい」との意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も農業の魅力を広く知ってもらうため、食農教育に力を入れる宿毛 4H クラブの活動を支援していきます。

ブシュカンの面積拡大に向けて・・・支援チーム会開催・・・



4月14日、四万十市役所において、第1回四万十ブシュカン支援チーム会を開催し、関係者7名が参加しました。

地域アクションプランの進捗管理シートをもとに、平成29年度の目標、活動内容を共有しました。

農業改良普及課からは、新規栽培者の募集方法、生産者組合の運営強化方法について助言し、支援チーム員の意識統一が図られました。

農業改良普及課は、今後事業実施主体を含めた支援チーム会での助言や栽培講習会を通じて生産者組合の自立を支援していきます。

加工用わさびの出荷始まる・・・J A高知はた西土佐支所・・・



4月13日、四万十市西土佐地区で、加工用わさび（茎わさび）の目慣らし会を行い、生産者や園芸連、J A、加工業者など9名が出荷規格や出荷の注意点について情報交換を行いました。

農業改良普及課からは、3月の天候不順と低温の影響で生育がやや遅れているため、今後の管理や作業のスケジュールについて助言を行いました。

農業改良普及課は、今後も地域の有望品目として、加工用わさびの振興を図っていきます。